

1. 環境モニタリング調査

- 1)調査内容
調査実施日：2025年1月28日
①海域水質調査（図-1）
②水温連続調査（図-8）

環境モニタリング調査
小田和湾の健康診断的な調査であり、平成元年度から概ね春季と冬季の2回実施している。
本年冬季に実施した、水質調査の結果、溶存酸素量などの分析項目は過去の調査結果の変動と比べて変動範囲内であった。

- 2)調査結果
①海域水質調査（図-2～7）

各グラフには、6地点の平均値を赤線で、最高値と最低値の幅を灰色の縦線で示した。

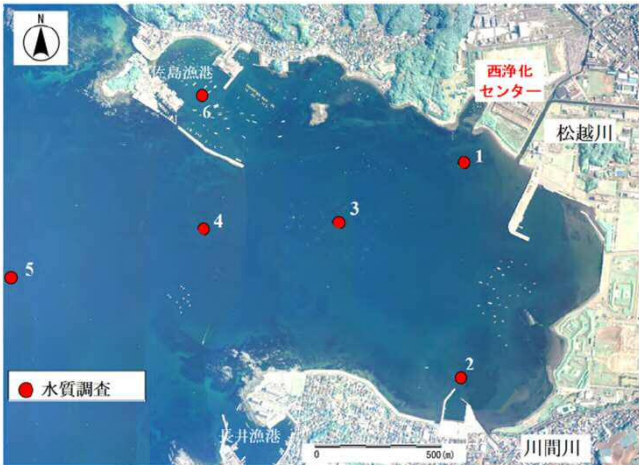
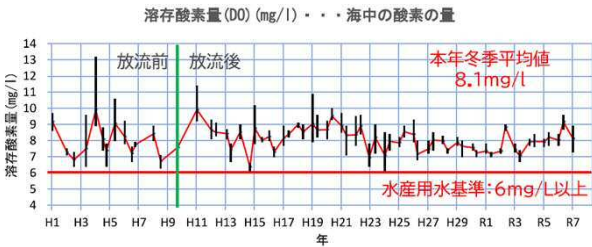


図-1

図-2



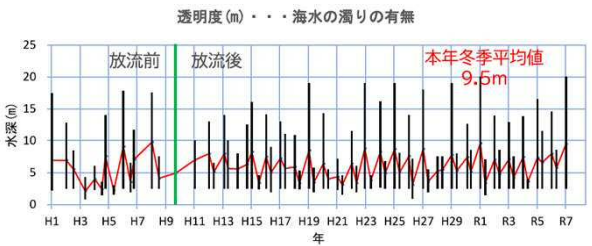
溶存酸素量(DO):安定
海水中に溶け込んでいる酸素量で、この値が低くなると魚介類が生息しにくい。
本年冬季では、これまでの変動範囲内であった。
基準値：6mg/l以上（参照：水産用水基準）

図-3



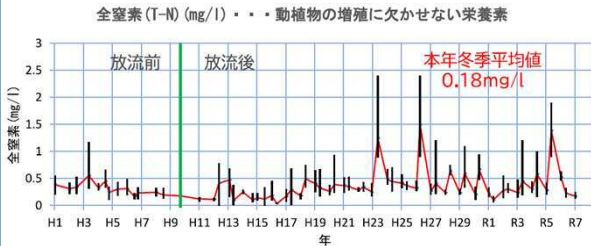
化学的酸素要求量(COD):安定
海水の汚れの指標である。
本年冬季では、これまでの変動範囲内であった。
基準値：2mg/l以下（参照：水質汚濁に係る環境基準）

図-4



透明度：安定
海水の濁りの指標で、小田和湾では春季に低く、冬季に高くなり、また湾奥部で低くなり、沖合で高くなる傾向にある。
本年冬季では、これまでの変動範囲内であった。

図-5



全窒素(T-N):安定
動植物が育つために必要な栄養分である。ただし、全窒素が多くなりすぎると富栄養化の原因になる。
本年冬季は、これまでの変動範囲内であった。

図-6



全リン(T-P):安定
リン化合物の総量で、全窒素と同様に動植物の増殖に欠かせないものである。
本年冬季では、これまでの変動範囲内であった。

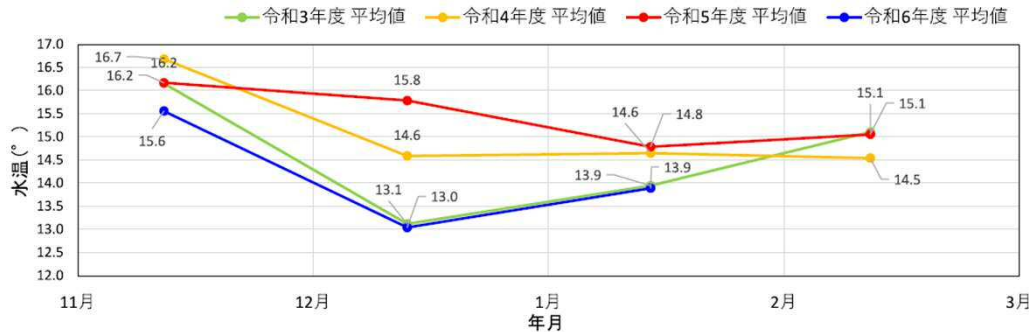
図-7



クロロフィルa:安定
海水中の植物プランクトン量の指標である。
本年冬季は、これまでの変動範囲内であった。

②水温連続調査（図-8）

水温結果



※平均水温は現在も観測しており暫定値
令和3年度から令和6年度までの12月～3月までの水温平均値を確認した結果、大きな変化はなく安定していた。